|  |  |
| --- | --- |
| 競技実行委員長 | 検査責任者 |
|  |  |

**全国高等専門学校体育大会剣道競技剣道用具確認証**

競技種目　男子 ・ 女子（ 団体 ・ 個人 ）（該当に○印を付ける）

全国高等専門学校体育大会剣道競技　実行委員長殿

全国高等専門学校体育大会剣道競技（以下、本大会）出場にあたり、本校選手が使用する用具について、全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」および、本大会の「大会要項と同大会競技運営に関する申合せ事項」を確認し、下記項目について不備がないことを確認しました。

確認日：令和　　　年　　　月　　　日

学校名：　　　　高等専門学校(　　キャンパス)　監督氏名(直筆)：

記

1. 竹刀（□にレ印を入れる）　　　検査本数：学校合計　　　　　　本

　□竹刀の長さ、重さ、竹刀の先革先端部の太さ、先革の長さが適正である

　□先から 8 センチメートル部分のちくとうの太さ（対角）が適正

　□中結の位置（全長の約1/4）及び結びが適正である

　□各ピース（竹）間に著しい隙間がない

　□破損及びささくれはない、不当な付属品を使用していない

　□安全性を著しく損なう加工・形状変更がない

1. 剣道具（□にレ印を入れる）

○小手

□こぶしと前腕（肘関節から手首関節の尺骨側（最長部））の1/2以上を保護している

□小手頭部および小手布団部は十分な打突の衝撃緩衝能力がある

□小手布団部のえぐり（クリ）の深さは、小手布団最長部と最短部の長さの差が2.5cm以内である

○面

　□面布団は、肩関節を保護する長さがある

□面布団は、十分な打突の衝撃緩衝能力がある

1. 剣道着（□にレ印を入れる）

　□剣道着の袖は、肘関節を保護する長さを確保している

1. その他（剣道具、剣道着、袴の着用について）

□面紐の結ぶ位置は目の位置（高さ）と同じ位置（高さ）となっている

□剣道着、袴には、所属する学校以外の学校名等が書かれていないものを着用している

本書式は、（監督氏名以外はワープロ作成可）竹刀検量・検査の際に、竹刀検査・検量申請書と共に提出して下さい。